

聖書 ヨハネによる福音書 6章 9節 (新約聖書174頁)

ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう。

推理小説

私の妻はお風呂に入っている間に文庫本を一冊読んでしまうほどの文学少女がおとなになった人です。特にミステリーの女王アガサ・クリステイは数え切れないほど読み返しています。推理小説の面白いのは、事実の一つですが真実は登場人物の数だけあるところです。さらに偶然も重なるので迷宮に悩まされます。

実は聖書も同じです。例えばイエスの生涯が書かれた福音書は四つもあります。どれが本当のイエスなのか。さらに二千年近く前に伝承され編集されたものですから、当時の人たちにあたり前のことは省略されています。だから福音書は「なぜイエスは殺されたのか」というイエス殺人事件の推理小説と言えます。

例えば、この五千人に食べ物を与えたお話は確かにパン五つと魚二匹で五千人に分け与えたことだけをクローズアップされると、現代では奇跡も虚しさで終わります。ところがよく読むと、他に食べ物がなかったとは書いてないのです。イエスは「どこでパンを買えばよいだらうか」(5節)と言っただけです。

当時は人口の半数以上が奴隷、小作人、女性や子どもは土地や家畜と同等の超格差社会です。少年が大麦のパン五つと魚二匹を持っているのは謎です。このお話は四つの福音書にありますが、少年が献げたのはここだけです。大勢の大人は何していたのか？なぜ少年なのか？そこが謎を解く鍵になります。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたは幼な子を抱き上げ、祝福されました。そして少年はパン五つと魚二匹をあなたに献げました。いま愚かな大人は子どもたちを戦禍に巻き込み苦しめています。どうか蛮行を直ちに止めて平和な日々を子どもたちに返してください。少しでも必要なものが子どもたちに与えられますように。今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン